

令和7年度

西伊豆町教育委員会
自己点検・評価報告書

令和8年9月

西伊豆町教育委員会

自己点検・評価の考え方

<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検・評価を行います。西伊豆町教育委員会では本シートを用いて令和7年度の活動及び施策の自己点検及び評価を行う。本シートでは、教育委員会の責任体制を明確化するため、「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に分けた。「教育委員会の活動」では、教育委員会会議や教育委員研修などの教育委員自身が行っている活動についての点検・評価を行う。「教育委員会が管理・執行する事務」については西伊豆町教育委員会の関連規則に則り、教育委員会が責務を果たすべき事項について自ら点検を行う。「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「令和7年度西伊豆町教育行政の基本方針」に示されている施策を基に点検・評価を行う。</p>	<p>実現度の見方 A…達成している(90%以上) B…概ね達成している(70%程度) C…ほとんど達成できていない(50%程度) D…達成していない</p>
--	---

大項目	中項目	小項目	点検・評価	
1 教育委員会の活動	(1)教育委員会会議の運営改善	教育委員会会議の開催回数	A	毎月1回の定例会を予定していましたが、議案等の審議事項がない場合などは開催を見送り、定例会10回の開催となりました。会議では、補正予算の上程や規則等の改正のほか、教育行政の基本方針や教育委員の任命、教職員の人事案件など、町の教育の充実に向けた審議と事務事業の円滑な推進に努めました。
		教育委員会会議の運営上の工夫	A	年間予定表を定例会で配付し、出来る限り全ての委員の方が参加できるように努めました。また、事前配付が可能な案件については、開催通知と合わせて会議資料を配付し、案件に対する理解を深めていただき、速やかな会議運営に努めました。
	(2)教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	教育委員会会議の公開の状況	A	開催告知は、開催日の概ね2週間前までに準備し、定例会招集の告示をしました。なお、会議の傍聴者はありませんでした。
		議事録の公開、広報、公聴活動の状況	A	議事録の作成については、時間を要する場合もありましたが着実にを行い、定例会開催の概ね10日後までに完了し、町のホームページに掲載することができ、迅速な対応いしました。
	(3)教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	A	会議終了後には、県教育委員会の状況や町の動向、事務事業の進捗状況などの情報提供に努めるとともに懸案事項などについて意見交換を行い、教育委員会と事務局との連携強化を図りました。
	(4)教育委員会と首長の連携	教育委員会と首長との意見交換の実施	A	総合教育会議を2回開催し、首長と教育委員との意見交換が行われました。第1回の会議では、組合立中学校の設立に向けてについて、認定こども園候補地調査の結果について、教育施策全般についての話し合いが行われました。第2回の会議では令和8年度西伊豆町教育行政の基本方針（案）などについて意見交換し、首長と教育委員会との意思疎通が図られました。
	(5)教育委員の自己研鑽	研修会等での自己研鑽	A	令和7年度は研修会等への参加はありませんでしたが、教育委員会定例会資料や関係法令、先進事例等の確認を通じて、教育行政に関する理解の向上に務めました。
	(6)園・学校及び教育施設に対する支援・条件整備	園・学校訪問	A	教育委員会定例会に合わせて園・学校訪問を実施しました。園長や校長から子どもの様子や施設の状況などの説明を受け、小学校では学校給食をいただき、食育の話など、教育・保育現場の現状を見聞きし、今後の教育行政に活かす視点を得ました。小学校の入学式、各園の卒園式及び各校の卒業式に出席しました。
		所管施設の訪問	A	教育施設環境の現状把握を目的に園・学校施設の視察を実施しました。社会教育施設については、図書館及び旧田子中学校の文化財展示の視察を実施し、現状の把握に努めました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1)教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関する こと	1 件	令和8年度の教育行政の基本方針について、第9回定例会において協議しました。
	(2)教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定及び 廃止に関すること	6 件	条例の改正(0件)、条例の廃止(0件)、規則の制定(0件)、規則の改正(2件)、規程の改正(1件)、 要綱の制定(2件)、要綱の改正(0件)、要綱の廃止(0件)、要領の改正(1件)
	(3)教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置 及び廃止に関すること	0 件	令和7年度の実績はありません。
	(4)教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育 機関の職員の任免その他人事に関すること (県費負担職員の任免を除く)	3 件	教育長の任命について、第9回定例会において審議し、3月の町議会定例会に議案として上程しました。令和7 年度末の学校長等の人事異動の内申について、第9回定例会において審議し承認されました。また、令和8年度の 教育委員会事務局職員の人事異動について第10回定例会において審議し承認されました。
	(5)教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に 関すること	1 件	令和6年度の教育委員会関連事業の自己点検・評価を行い、教育委員会評価委員からの意見と併せて9月の町議 会定例会で報告しました。
	(6)教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を 申し出ること	0 件	議会の議決を経るべき教育予算等について報告し、特に意見の申出はありませんでした。
	(7)県費負担職員のサービスの監督の一般方針を定めること	0 件	令和7年度に方針を定めた実績はありません。
	(8)人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと	0 件	令和7年度に方針及び懲戒を行った実績はありません。
	(9)学校、公民館、図書館の敷地の設定及び変更を決定する こと	0 件	令和7年度の実績はありません。
	(10)教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は 委嘱に関すること	1 件	第1回定例会において社会教育委員会委員の委嘱を行いました。
	(11)通学区域を定めること	0 件	令和7年度の実績はありません。
	(12)校長、教員その他教育職員の研修の一般方針を定める こと		校長研修会 教頭研修会、教科研修会、教務主任研修会、生徒指導研修会、初任者研修、研修主任研修会、特別 支援学級担任者研修会、I C T研修会、県外視察研修、独立行政法人教職員支援機構常葉大学センター研修、こども 園小学校合同研修会、西伊豆町一貫教育研究会等を行いました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1) 確かな学力と自立する力を育む教育	特色ある学習の推進	A	<p>学校経営目標や児童生徒の実態・学力調査結果等に基づき、予算の範囲内で学力向上の対応策や授業力を高めるための研修等を検討し、学校毎に特色ある学校づくりを推進しました。</p> <p>小学校2校において、教育版レゴEV3などを活用したプログラミング教育を実施し、プログラミングに関する知識を習得しただけでなく、プログラミングを通して問題解決のための発想力も養われました。</p> <p>また、仁科小学校、賀茂小学校において演劇やガラス工芸体験を実施し芸術に触れる機会を作ったほか、各小学校で漢字能力検定の受検など学力向上につなげる取組も実施しました。西伊豆中学校では、キャリア教育として「未来をつくるみなさんへ」をテーマに俳優の宮城嶋遙加さんを講師に迎え将来のことを考える機会を創出しました。また個別の習熟度に応じて問題が変わるA Iドリル「ドリルパーク」を活用し、夏季冬季休暇中の受験対策講座・学力検査を行い、生徒個人に合わせた指導を実施することができました。</p>
		情報教育の推進	A	<p>一人一台のタブレット端末を活用し、学校における授業方法の工夫改善や家庭学習での活用により、充実した学習の実施につながりました。また、個別の習熟度に応じて問題が変わる教材ソフトのA Iドリルを全校で運用するなどタブレット端末を使用した授業の推進を図りました。</p> <p>授業におけるI C Tの活用を推進するため、I C T活用研修会を開催し、各校における課題を共有するとともに、課題解決を図りました。令和7年度末にはタブレット端末からクロームブックへ端末の入れ替えを行い、教職員への研修を行いました。</p>
		国際教育・交流の充実	A	<p>J E Tプログラム（外国青年招致事業）のA L T 2人と会計年度任用職員のE L T 1人の計3人を任用し、英語教育の充実に努めました。長期休業中には「English summer Camp(2泊3日)」に26人の小中学生が参加して、タイダイ染めや海外の様々なゲーム（電子なし）、食事などを体験し、海外の文化を学びました。</p> <p>A L Tについては、外国語教育推進委員会を開催し、各校の活用事例や今後の活用の仕方について協議・検討しました。</p> <p>また、令和6年度から台湾との交流事業を復活し、中学生9人が台湾高雄市のホストファミリー宅で2泊3日のホームステイを経験しました。最終日には福誠高級中学校で授業体験を実施しました。帰国後は校内発表会を開催し、生徒にとって大変有意義な事業を展開できました。</p>
		複式学級への対応	A	<p>児童数の減少に伴い、賀茂小学校の3・4年生と仁科小学校の3・4年生が複式学級となりましたが、標準的な教育水準確保のため、全額町費負担による複式学級補助教員を配置しました。これにより、通常学級とほとんど変わらないきめ細やかな教育を図ることができました。</p>
		家庭教育の充実	A	<p>子どもの健全な育成を行う上で重要な役割を担う家庭教育の充実に図るため、町内の園・小・中では家庭教育学級を設置し、保護者同士が自らできる活動を模索し、企画・立案して計画的・継続的に活動を進めました。教育委員会としては、家庭教育学級への補助金を交付し、支援を行いました。</p>
		総合学習の推進	A	<p>各学校において、学年ごとに総合的な学習の時間のテーマを設定し、地域に密着した体験活動や学習を実施しました。自然や地域の人々とのふれあいを通して、地域への興味・関心や理解を深めるとともに、郷土への愛着心を育むことができました。</p> <p>また、西伊豆中学校では、西豆地区の2中学校と松崎高等学校が連携して「西豆学」に取り組み、「西豆を体験しよう」や「職場体験」を合同で実施したほか、中高合同発表会を開催しました。これらの取組により、地域への理解を深めるとともに、中高連携による学びの充実を図ることができました。</p>

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)確かな学力と自立する力を育む教育	一貫教育の推進	A	<p>松崎高等学校と西豆地区2中学校による「連携型中高一貫教育」では、様々な連携事業を実施し、生徒同士が共に学び、考え、協力することで成長につなげることができました。また、町一貫教育研究会を中心に、園から中学校までを見通した研修会や連携事業を実施し、一貫性のある教育の推進を図りました。</p> <p>さらに、松崎高等学校への進学を支援するため、給付型奨学金制度を継続して実施し、令和7年度は新たに2人を認定しました。既存の認定者3人と合わせて5人が給付を受け、松崎高等学校の魅力向上と進学支援に寄与しました。</p>
		幼児教育・保育の充実	A	<p>町内の認定こども園では、それぞれの地域の特性を生かした特色ある園の教育目標を持ち、幼児教育のねらいとする「健康・人間関係・環境・言語・表現」や、基本的生活習慣、食育、家庭や地域との連携のほか、一貫性のある幼小接続を目指し、小学校入学までの3年間の教育課程を細分化し、個々の成長に合わせた取組を行いました。また、園外活動により幼児の五感を刺激しながら成長につなげたり、2園の園児交流や小学校児童との交流、ALTによる英語活動の時間を設けるなど、様々な人との関わりを持つことで好奇心等を育むことができました。</p> <p>令和6年度から両園において保護者による1日保育体験を実施しています。令和7年度は71人の保護者の参加がありました。この体験を通じて、我が子の発達やこれからの接し方、保育者の仕事の大変さについての理解を深めていただくことができました。</p>
	(2)規範意識・豊かな心を育む教育	地域環境づくりの推進	A	<p>青少年の健全育成に関する施策の調査審議と行政・関係団体相互の連絡調整を図るため、青少年問題協議会を設置し、2回の会議を開催しました。協議会では、「夏季・冬季の街頭指導」「青少年健全育成標語の募集掲載」などを行い、地域全体で青少年の健全な心身を育む環境づくりに心掛けました。</p> <p>また、令和4年度から開催している子ども議会は、各小学校5・6年生から議員として6人、仁科小学校から議長として1人が参加し、町に対して思っている疑問や要望を一般質問形式で町長に投げ掛け、町長が答弁しました。なお、各校の6年生は議場の傍聴席から、5年生はZOOM配信により各学校で傍聴しました。模擬議会の体験を通じて、子どもたちが町の課題について自ら考え、主体的に生きるために必要な能力の育成につながりました。</p>
		青少年活動の推進	A	<p>令和3年度から町内開催となったわんぱくクラブでは、以前は西天城高原「牧場の家」に宿泊していましたが、令和6年度からは宇久須キャンプ場での宿泊に変更し、令和7年度は20人の募集に対し、26人の応募があり抽選となるほどの人気でした。参加した子どもたちは、シーカヤックやキャンプ等、町の自然の魅力を体験する貴重な機会となりました。</p> <p>わくわく体験村子ども体験会は、令和6年度から20人以上に参加者が増え、町内の海を舞台に「シーカヤック」「SUP」「係船釣り」「スノーケリング」の4回の活動を実施しました。</p>
		人材の育成	A	<p>自発的にボランティアとしての資質や能力を高めようとする中学生が、町内事業所等でボランティア活動を行いました。なお、活動時間が20時間を超えた12人（3年生9人、2年生3人）の生徒が静岡県青少年指導者級別認定を受けました。</p>
		啓発活動の充実	A	<p>町内の小学1年から中学3年までの児童・生徒を対象に、挨拶や人を思いやる心の大切さ、非行防止などについての標語を募集し、広報にしいずに優秀作品を掲載しました。また、広報にしいずに「静岡県青少年の非行・被害防止強調月間」のPRなどを掲載し、子どもたちをインターネット利用における犯罪被害等から守るための啓発活動を行いました。</p>

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3)安全・安心を確保し、健やかな体を育む教育	学校体育、部活動の充実	A	学校体育や部活動の充実を図るため、静岡県内で開催される大会や練習試合への参加に係る派遣費を補助するとともに、スクールバスを活用した移動支援を実施しました。これにより、生徒が積極的に活動へ参加できる環境づくりを進めるとともに、保護者等の送迎負担の軽減を図ることができました。
		安全な給食の提供	A	衛生管理マニュアルに基づき、給食センターにおける衛生管理の徹底に努め、安全・安心な給食の提供を行いました。また、食物アレルギーのある児童・生徒に対しては、給食センターの設備や運営体制の範囲内で除去食等の対応を行い、安全性に配慮した給食の提供に努めました。
		魅力ある給食の提供と食育の推進	A	食育及び地産地消の推進を図るため、毎月の「ふるさと給食の日」や「ふるさと給食週間」において、町内産・県内産の食材や郷土料理を提供し、地域文化や伝統への理解を深める機会を設けました。また、「朝食の大切さ」や「正しい箸の持ち方」に関する授業の実施や、給食調理の工程を動画で配信するなど、食に関する知識や関心を高める取組を行いました。 さらに、給食費の無償化を継続して実施し、物価高騰が続く中においても保護者の経済的負担の軽減を図ることができました。
		基本的生活習慣の確立	A	各学校において、挨拶や時間を守ること、バランスのよい食事をとることなど、基本的生活習慣の確立に向けた指導を継続的に行いました。子どもたちに具体的な目標を示しながら指導することで、規則正しい生活習慣や望ましい生活態度の定着を図ることができました。
		防災教育の推進	A	西伊豆中学校での災害図上訓練「D I G」や避難所運営ゲーム「HUG」、各小学校での「防災カルタ」や「防災サバイバル講座」、「静岡県防災アプリを活用した講座」、各園での「防災ダック」や職員を対象とした「D I G」の実施など、それぞれが各種防災講座を実施するとともに、仁科小学校と仁科認定こども園による合同引渡し訓練や西伊豆中学校と賀茂小学校による合同避難訓練など、地域の実状の把握や災害時の対応について、防災意識の向上と防災教育の推進を図りました。
		安全、安心な環境づくり	A	緊急連絡システム（すぐーる）を活用し、保護者への迅速な情報提供やアンケートの実施、不審者情報発生時の注意喚起を行うなど、安全・安心な情報伝達体制の充実を図りました。 また、各学校において施設や遊具の定期的な安全点検を実施し、必要に応じて修理や撤去を行うことで、安全な教育環境の維持に努めました。 さらに、賀茂小学校では放課後学習支援員や遊び見守りボランティアの協力を得て、放課後の子どもの居場所づくりを推進し、安心して過ごせる環境の充実を図ることができました。
	(4)教育環境の整備と教職員の資質向上	園・学校等の再編	A	認定こども園の建設候補地選定について、両園のP T Aから令和6年11月18日付けで防災シェルターの導入及びこども園建設に関わる切土調査についての要望書が提出され、令和7年3月に伊豆海認定こども園にシェルター2基の設置が完了し、その後、仁科認定こども園に令和7年11月にシェルター3基の設置が完了しました。 認定こども園建設に関わる切土調査(旧西伊豆中の裏山を切土する)業務については、調査結果を議会に説明し、その後、議会から認定こども園候補地選定について、切土案、盛土案、ピロティ構造案の概算費用算出の要請があり、補正予算(第7号)にて認定こども園候補地選定に係る比較検討概算金額算出業務の予算を上程し、業務を発注しました。 新たな動きとして、中学校の統合に関して、松崎町との組合立に向けた検討をする中学校統合推進協議会を発足し、令和8年2月16日に、第1回松崎町・西伊豆町中学校統合推進協議会を開催しました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(4)教育環境の整備と教職員の資質向上	老朽施設の修繕整備	A	老朽化した施設の改修・修繕を計画的に実施し、仁科認定こども園では受電設備微量PCB含有機器取替工事、仁科小学校では校庭フェンス改修工事、西伊豆中学校では体育館照明LED化工事、体育館トイレ改修工事及び特別教室空調設備設置工事を行いました。また、田子給食センターでは搬入口改修工事を実施しました。これらの整備により、施設の安全性や教育環境の向上を図ることができました。今後も、児童・生徒の安全確保を最優先に、計画的な改修及び修繕を進めていきます。
		高等学校生徒等への通学支援	A	引き続き、高等学校等へ通学する生徒の保護者等に対して通学費の一部助成を実施し、教育に係る経済的負担の軽減を図りました。また、令和元年度から利用者が助成額を差し引いた金額で定期券を購入できるようにしており、申請手続の簡素化と利便性の向上を図りました。これらの取組により、保護者の経済的負担の軽減と制度利用者の利便性向上に寄与することができました。
		特別支援教育の推進と連携	A	特別な支援を必要とする子どもに対し、幼児期から中学校まで切れ目のない支援を行うため、特別支援教育巡回相談員による巡回相談を町内の園・学校で延べ18回実施しました。また、特別支援教育連携推進協議会において、園・学校の具体的な取組について情報交換を行い、関係機関の連携強化を図りました。さらに、令和6年度に引き続き園・学校へ特別支援員を配置し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制の充実に努めました。
		児童・生徒の心のケア・教職員の指導充実	A	不登校児童・生徒に対しては、教職員、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーが連携し、保護者も含めた継続的な支援を行うことで、学校復帰や社会的自立に向けた支援の充実を図りました。また、田子公民館内に開設している教育支援センターにおいても、学校と連携しながら学校とは異なる視点による支援を行い、一人一人の状況に応じたきめ細かな対応に努めました。いじめ問題については、各校から毎月提出される報告により状況把握に努めるとともに、いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめの現状や対応方策について協議するなど、未然防止及び早期発見・早期対応に向けた取組を推進しました。
		教職員の資質向上対策	A	引き続き賀茂地区5町で3人の指導主事を共同設置するとともに、下田市及び静岡県の指導主事を加えた広域連携体制により、学校訪問や各種研修を実施し、教職員の資質向上を図ることができました。また、共同設置した指導主事3人のうち1人を西伊豆町・松崎町教育委員会事務局に配置し、学校やこども園への指導・助言体制の充実を図りました。
	(5)生きがい・潤いのある生活を育む文化芸術の振興	生涯学習の充実	A	生涯学習は子どもから大人まで多岐にわたり、その要望も多様であるため、町民のニーズに応えるための施設整備や事業選定には難しい面があります。そこで毎月発行の「広報にしいず」に、生涯学習事業や新刊図書の紹介のほか、体育スポーツ及び文化団体の活動内容などを掲載し、会員や参加者の増加に努めましたが、会員は減少を続け、参加者はほぼ横ばいの状態となっています。また、各種事業を行った際は、事後の評価シート及びアンケート調査を作成した上で事業の検証をしました。
		社会教育施設の整備	B	社会教育施設は、住民の学習活動の拠点となる施設であり、多様化するニーズに対応した整備や改修が必要となっています。各施設ともに年々老朽化が進み、不具合の生じた設備の緊急修繕や消防法に基づく立入検査で指摘された設備の改善などの応急的な維持管理に予算の大半を費やしています。今後は利用実績等を考慮した上で、長寿命化や廃止等を含めた管理をするため、個別施設計画の見直しを行います。
		芸術文化活動の推進	A	各地域で行われている伝統行事に対し、活動支援補助交付団体が令和6年度の4団体から6団体に増加しましたが、各地区において高齢化や人口減少による後継者不足による団体存続危機は継続しています。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(5)生きがい・潤いのある生活を育む文化芸術の振興	芸術文化団体の育成支援	A	町文化協会が主催する活動への補助及び事務的支援を行いました。令和6年度に引続き文化展の開催のほか、音楽芸能発表会を開催し、コーラス、大正琴、詩吟、舞踊、カラオケが参加し盛大に行われました。文化協会は、各部で講座を開催するなど、新たな会員確保に努めております。高齢化により文化事業に協力できないという理由で1団体（俳句の会）が脱退しましたが、新しく木管楽器の1団体（ラルゴの風）が増えるなど、教育委員会としては引き続き会員の確保に向けた支援を行っていきます。
		文化イベントの充実	A	文化講演会は、社会福祉協議会が主催する社会福祉大会と合同で実施し、講師として落語家の林家木久蔵氏から、「笑うが一番」というテーマにて多目的ホールで講演いただき、ほぼ満席の約150人の町民が来場し大変好評でした。また、文化協会主催の文化展及び音楽芸能発表大会は令和6年度と同様に開催し、来場者はそれぞれ988人と160人と令和6年度より大幅に増えました。子ども演劇鑑賞教室（町内2小学校持ち回り）は、仁科小学校において計画どおりに実施することができました。
		図書館利用の促進	A	図書館利用の促進と読書活動の普及のため、館内ポップの工夫や特設コーナー（話題の本・今月の特集）の設置などを行いました。また、利用者の利便性向上を図るため、ボランティアスタッフ2人の協力をいただきながら昼休みの平日開館を実施しました。昼休み時間の利用者数は260人で、昼休みの利用率は平均で約5%でした。なお、令和7年度の図書貸出冊数は7,907冊で、令和6年度の8,871冊と比べ964冊の減となりました。また、読み聞かせ会は令和5年度6月から毎月1回開催しております。 話題となっている図書や新刊図書を定期的に購入し、図書資料の充実を図りながら令和7年度末現在、23,703冊の蔵書を管理しています。また、年に1回蔵書整理を行い、図書の入れ替えをしながら、保存期限が過ぎた雑誌や古本等は、「広報にしいず」に掲載して欲しい方に譲りました。 他市町の図書館と情報交換を行うとともに、図書等の相互貸借により利用者の利便性向上にも努めました。
		姉妹町との交流促進	A	令和7年度は、文化協会、女性会、スポーツ少年団及び5年生交流会を開催することができました。 体育協会については、会員の縮小および高齢化等により、富士見町側の受入れができないとのことで、交流することができませんでした。
	(6)健康な生活を育む生涯スポーツ振興	スポーツ・レクリエーション活動の充実	A	地区対抗球技大会は、令和6年度に引続き、ワンタッチバレーボールを種目として開催し、11チーム159人の参加登録がありました。スポーツ委員会では令和8年度以降もワンタッチバレーボールで地区の交流を行っていくこととしています。 令和6年度に中止となった西伊豆町夕陽の郷マラソン大会に替わる新規事業として、軽スポーツオリンピックと称した多種目の軽スポーツ大会を実施し、13チーム49人の参加がありました。 軽スポーツ教室については、春は軽スポーツ大会のトライアルを実施し、秋は令和6年度に引き続きパラリンピックの正式種目で誰でも参加しやすい「ポッチャ」を取り入れ実施しました。 協定を締結している県内プロスポーツチームおよび大学と連携し、スポーツ合宿誘致や町内の小中学生を対象としたプロスポーツ教室を開催しました。 また、助成金を活用し、県内で開催されたプロスポーツ公式戦を「西伊豆町PR冠試合」として実施したり、町民向けに大型バスによるスポーツ観戦ツアーを実施しました。
		スポーツ施設の整備・充実	B	各スポーツ施設で不具合が生じた設備の緊急修繕や、消防法に基づく立入検査で指摘された設備の改善などを行い、安心して利用できるよう努めました。各施設とも利用者は比較的多いことから、施設の整備や充実を図りたいところですが、老朽化が著しく、維持管理に苦慮しているのが現状です。社会教育施設同様、今後は利用実績等を考慮した上で、長寿命化や廃止等を含めた管理をするため、個別施設計画の見直しを行います。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(6)健康な生活を育む生涯スポーツ振興	指導者の育成・確保	B	<p>スポーツ少年団では、運営する際に認定員等の有資格者が必要となります。令和7年度現在、1団体で指導者2人が有資格者となっています。有資格者の育成・確保という面においては、活動できている団体がバレーボール1団体となっており、大変厳しい状況となっています。令和7年度においては団員確保のため、団員募集チラシを作成し、町内小学校及び教育委員会にて周知しました。</p> <p>今後、松崎町と連携を取りながら子どものスポーツについて取り組んでいく必要があると考えています。また、スポーツの指導者の掘り起こしが必要となりますが、人口減少と高齢化に伴い人材確保が課題となっています。</p>
		組織体制の整備	A	<p>スポーツ推進委員等各団体は、予定していた事業は全て行うことができました。各団体とも町の行事等に積極的に参加、協力し相互の連携を図っています。</p>
		交流推進体制の整備・支援	A	<p>体育協会主催のしずおかスポーツフェスティバルは、令和6年度同様にボッチャを種目として開催し、20チーム募集のところ、一般や小学生の18チームの応募があり、55人（R6：48人）の参加がありました。</p> <p>また、体育協会に加入している12団体に対し、大会開催等による活動補助を行いました。</p>
	(7)地域の誇り、郷土の愛着を育む学習・文化財保護	学校と地域の融合促進	A	<p>地域人材を活用し、子どもたちの郷土愛と地域とのつながりを育むため、わくわく体験村実行委員会に委託して海の体験活動を実施しました。また、地元遊漁船組合の協力のもと、ツッテ西伊豆を活用した小学生向け教育事業として、親子漁師体験を開催しました。</p>
		文化財の保護・保存	A	<p>文化財保護法に基づき、県教育委員会と連携しながら、名勝伊豆西南海岸の景観保護に努めました。（現状変更申請：20件、期間変更届：2件、許可通知：21件、終了届：20件）</p>
		文化財等の活用	A	<p>民俗文化財等の貴重な財産を町民に知ってもらうため、令和7年度も文化財展示会を開催しました。令和6年度に引き続き、県の無形民俗文化財に登録されている人形三番叟を紹介する部屋を設けたほか、県の有形文化財に指定されている宇久須神社の釣灯笼の展示を実施しました。来場者は令和6年度の倍近くで過去最高の364人でした。</p>
		文化財保護思想の普及	A	<p>旧田子中学校に展示してある民俗文化財等の整理を進め、11月の文化財保護強調週間中に展示会を開催し、町民の文化財への関心を深めました。また、町内小学校を対象に社会科見学を実施し、子どもたちに昔の町の様子を知ってもらう良い機会を提供できました。</p>
		男女共同参画への意識改革	B	<p>令和5年度に「西伊豆町男女共同参画推進プラン」の見直しを行い、令和10年度までの5年計画を策定しました。具体的な行動としては、6月末の男女共同参画週間について、広報にしいずへ記事を掲載し啓発に努めました。が、今後も計画の推進に向けて、より一層、担当部署間との連携を図っていきます。</p>
		女性団体への支援・育成	B	<p>女性会への活動に対する補助及び支援を行いました。また、令和7年度は、女性会の姉妹町交流として富士見町へ20人の代表者が訪問し、情報交換を行いました。</p> <p>しかし、団体の高齢化や役員を引き受けてくれる人が見つからず、令和7年度をもって両団体（仁科地区と安良里地区）の解散が決定しました。</p>

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(8)子育て支援の充実、子どもの居場所づくり	幼児期における子育て支援	A	<p>子育て支援センターでは、育児や家庭環境に対する不安や悩みを抱える保護者が増え、相談内容も多様化している中、子育て支援センターを開所している意義は非常に大きく2施設で年間延べ482日開所し、1,480人の利用がありました。土曜日は隔週で開所していましたが、利用者がほぼいない状態であったため、事前告知の上、5月から事前予約制で開所することとしました。このことにより職員の負担軽減を図ることができました。少子化と保育料無償化に伴う入園の早期化により対象児童が減っていることから、昨年度に比べ利用者が4人減少している状況です。</p> <p>子育て支援センターでは、毎月開催する会議の中で様々な意見交換を行い、子育て支援の早期対応に心掛けたほか、町内全ての未就園児の把握に努め、家庭訪問や手紙に加えSNS（LINE）を活用して情報提供をするなど、利用促進を図っています。</p> <p>また、こども園においては、特別支援コーディネーターの配置を行い、発育などの相談窓口となっているほか、町の巡回相談員の子育てアドバイスのコラムを園だよりに掲載するなど子育て支援につなげる取組も実施しています。</p>
		小学校における子育て支援	A	<p>仁科小学校において放課後児童クラブを290日開所し、多くの児童を受け入れました。学童保育時間が長く、人数も増える長期休業中には支援員を3人体制とし、見守りや支援を必要とする児童にも対応しました。</p> <p>登録人数は37人（仁科小学校27人、賀茂小学校10人）で、延べ2,687人の利用がありました。土曜日や長期休業期間も含めた平均利用人数は6.71人となり、1日あたりの最大利用人数は、平日で15人、長期休業期間は24人でした。賀茂小学校区への設置要望もありますが、人員確保やスペースの問題もあり、設置は難しい状況にあります。このような状況を踏まえて、賀茂小学校の児童も利用しやすくなるように送迎車を運行しました。</p> <p>また、月に1度、支援員会議で情報共有を行い、利用しやすい児童クラブの運営を心掛けました。</p>

自己点検全体評価

令和7年度西伊豆町教育委員会の自己点検につきまして、次のとおり報告します。

1 教育委員会の活動

定例会においては、活発な意見交換や情報共有が図られるとともに、議案の円滑な審議が行われ引き続き良好な委員会運営が図られました。また、総合教育会議では、町教育行政の課題について首長と率直な意見交換が行われ、相互理解と共通認識が図られました。

2 教育委員会が管理・執行する事務

事務処理については、漏れや遅滞がないように心掛けており、適正に処理できたと考えています。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

「西伊豆町教育大綱」及び「西伊豆町教育行政の基本方針」に基づき事務・事業を執行しました。

認定こども園の避難対策として、仁科認定こども園に防災シェルター3基を設置することができ、避難手段の選択肢が増えました。認定こども園建設に関わる切土調査(旧西伊豆中の裏山を切土する)業務については、調査結果を議会に説明し、その後、議会から認定こども園候補地選定について、切土案、盛土案、ピロティ構造案の概算費用算出の要請があり、補正予算(第7号)に認定こども園候補地選定に係る比較検討概算金額算出業務の予算を上程し業務を発注しました。また、中学校については、松崎町との組合立に向けた検討をする中学校統合推進協議会を発足しました。

学校教育関連では、給食費の全額補助、高校生通学費助成や松崎高校給付型奨学金の支給など、子どもの教育にかかる保護者の経済的な負担を軽減するための施策に取り組みました。また、1人1台のタブレット端末を活用し、小中学校でのICT機器を活用した学習の充実を図りました。令和7年度末にはタブレット端末からクロームブックへ端末の入れ替えを行いました。入れ替えにあたり、教職員への研修会を実施しました。中学校を対象とした国際交流事業は、令和6年度から台湾との交流事業を復活し、令和7年度は、中学生9人が台湾高雄市のホストファミリー宅で2泊3日のホームステイを経験しました。最終日には福誠高級中学校で授業体験を実施しました。帰国後は校内発表会を開催し、生徒にとって大変有意義な事業を展開できました。子育て支援、防災教育、不登校対策、複式学級対策、特色ある教育の推進などの西伊豆町独自の事業推進にも引き続き積極的に取り組みました。

社会教育関連では、既存事業を検証しながらより効果的な事業となるように改善を図るとともに、町民まち歩き、わくわく体験村、わんぱくクラブ、親子漁師体験、文化講演会など各種事業を実施しました。そのような中、夕陽の郷マラソン大会に替わる事業として、多種目の軽スポーツを集めたオリンピック的な大会を開催し、好評を得ました。また、協定を締結している県内プロスポーツチーム及び大学と連携し、スポーツ合宿誘致や町内の小中学生を対象としたプロスポーツ教室を開催し、特色ある事業として取り組みました。

文化財保護審議会では、令和6年度に引き続き旧田子中学校において、文化財展示会を開催し、文化財の積極的な活用を図るとともに、町民の文化財への関心を深めました。過去最高の364人の来場者があり、大変好評な意見を多数いただき、次年度につながる取り組みとなりました。

課題としては、少子化・高齢化が急激に進む中で各種年齢層のニーズをしっかりと把握し、新たな事業展開を模索する必要があると考えています。また、当町が直面する様々な課題への柔軟な対応も不可欠ですが、限られた予算の中でより教育効果を高めるための工夫・改善を図る必要があると考えています。

全体として、認定こども園の移転については、大きな進展を見ることはできませんでしたが、仁科認定こども園への防災シェルターを設置することができ、一定の成果を挙げられたと考えています。引き続き、これからの認定こども園・小中学校のあり方について、将来を見通した西伊豆町の教育のあり方を検討していきます。

評価委員による意見

西伊豆町教育委員会の自己点検・評価に対する評価委員による知見の活用は、4人の方をお願いすることとした。

様々な御意見、御助言をいただいた評価委員の方々のお名前は、次のとおりである。

氏 名	所 属 等
齋 藤 良 久	学識経験者
長 島 田鶴子	学識経験者
藤 井 美 貴	保護者代表
清 水 憲 司	仁科小学校長(学校代表)

西伊豆町教育委員会の自己点検・評価に対する意見

○全体として

- ・おおむねどの項目もAが付けられるなかで、社会教育施設の老朽化や指導者育成、男女共同参画問題等のB評価は、逆に事務局の真摯な課題のとらえ方として高く評価できる。頑張ればすぐにAになる課題ではないだけに担当者の労苦も理解したい。
- ・毎年この評価項目を読ませていただいているが、本当に多岐に渡る活動だけに教育委員会事務局には感服する。この評価書は、これだけの活動をするのに様々な団体との連携や意思疎通を図りながら、限られた人材と予算で1年間回していくことの大変さを、とてもよく理解できる内容となっている。
- ・年々、こどもと若者が減少し、増加は高齢者のみの西伊豆町の環境の中で、良い取り組みが見られる。また、様々な視点を持ち、学校教育に対する支援・援助をしており、事務局の真摯な活動に対し敬意を表したい。

○教育委員会の活動

- ・すべての項目評価がAであることは、内容を見ると理解できる。事務局サイドが各教育委員との関係をととても大切にし、また丁寧に接していることも各活動から読み取れる。今後もさらに継続して行ってほしい。
- ・教育委員会が、抱える課題として、住民の関心の高さから言えば、やはり統合問題が1つ挙げられると思う。松崎との中学統合や小学校の再編成、幼稚園の候補地等、水面下では話が進んでいるのであろうが、あまり表立っては、聞こえてこない印象にある。

首長と教育委員との話し合いで、どの程度のものが話し合われたのかとても興味がある。

- ・この「1 教育委員会の活動」の評価項目に対する説明文は、ほとんど令和6年度と変化がない。評価が同じ視点のみで行われているのか、もう少しいろいろな面から活動の評価していくことも大切なのではないかと思う。
- ・取り組みばかりが記載されているが、手ごたえや成果についても記載されていると分かりやすく、もっと良いと感じる。

○教育委員会が管理・執行する事務

- ・令和7年度は、教育長の交代問題や学校長2名の異動人事など、大きな課題を持った話し合いがなされたことと推察できる。事務局と教育委員との連携のもと肅々と協議・処理されたこと推察される。
- ・田子中の文化財展示は、とても委員が頑張っているのも、年々展示が見やすく、わかりやすくなっていると思う。その点をよく理解して施設見学が実施されたと理解している。各委員の文化財保護への理解や協力等をさらに具現化して行ってほしい。例えば文化財保護の予算増額や展示関係の補助についてなど審議委員の要望にも耳を傾け、総合教育会議等の議題としてあげていただくことで、さらに整備が進み、より良い社会資産になるのではないか。

○教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

- ・特色ある学習の推進では、各学校とも、とても頑張っているのではないかということが読み取れる。学校経営において学校長裁量が大きくなってきている昨今、やはり校長の技量が問われる分野でもあるだけに、3名の校長の学校経営に対する強い思いが理解できる。
- ・J E Tプログラムは、学校教育だけではなく、いろいろな分野で影響していると思う。A L Tの活用もより具体的にまた、効果的にするために推進委員会を開催したということだが、そこでの内容や活動の評価等をこの項目の中で触れてほしい。
- ・保護者としては複式学級に対して手厚く補助教員を配置していただいたことは、とても喜んでいると思う。以前、純然たる複式学級の授業を見学したことがある。子どもたちと教員との人間関係ができていないと、高い学習モチベーションを保ちながら2学年すべての児童が学習し、標準的学習水準を定着させることは難しいと感じたことを思い出した。その意味からもこの配置はとてもありがたく有用な対応だと思う。
- ・松崎高校のキャンパス制構想が現実化してきたことによって、中学生の進学傾向がどのように変化していくのかとても気になります。町の対応はとても高校生を大切にしていると感じられる。だからこそ西伊豆町にとって有益な高校生となってもらいたいと願う。補助だけ貰ってあとは無関心では、とても寂しく感じてしまう。そのようなことが起きないためにも、西伊豆町は素晴らしい

ところだという「ふるさと意識の醸成」を園・小・中から体験するような活動やボランティアなどに、多くの子どもたちが積極的にかかわってくれたらと願う。

- ・部活動でのスクールバス利用に関しては、過日悲しいバス死亡事故が起きているだけに、その運用マニュアル等をしっかり確立し、保護者等にも納得・理解してもらい、また関係各位への説明責任が果たせる体制にしておく必要がある。
- ・部活動の地域展開については、なかなか進まない状況であるが、教えてもらえる人材がなく、環境が整っていない。経験者が教えてくれる環境と伸びたい子を伸ばせる環境を作っていただきたい。
- ・社会教育では指導者や会員の高齢化、施設の老朽化等々この市町も同じような課題を抱えていると感じる。やや乱暴な意見だが、切り捨てるところは切り捨てたり、またマンネリ化して継続が難しい事業などは、その内容を新しいことに切り替えたりしながら、舵を切りなおすことも1つの方法だと思う。老朽化した施設はもう貸し出さないとか、存続が難しい団体は統合したり解散したりしながら、人口約6千人の町の身の丈に合う活動をしていくこともありではないか。
- ・色々な教育環境で、こども達の成長を促してくれてありがたく感じる。
- ・規範意識・豊かな心を育む教育の項目の中に、命の大切さやお互いの人権の大切さも入れていただきたい。
- ・各学校では、1つの行事を行うと関わった人にアンケートを取り、より良い活動になるように取り組み、次年度の計画に活かしていきます。その中で、さらにひと工夫すると良い取り組みになるのではないかという意見をもらいます。このような中で、こども議会は、良い取り組みと思える。あらたな改善として、5・6年生全員に問題意識をなげかけ、その中から代表を選ぶのはいかがか。良いものになっていく要素を見て行ければと思う。
- ・社会体育を実際に、自分たちがやるということも大事だけれど、プロスポーツを観て、感動するというような取り組みも良いと思われる。また、各種団体の支援など、きめ細かく計画的に進めてくれてありがたい。
- ・放課後児童クラブは、働いている保護者にとって、すごくいい環境を与えていただいております、こどもからも楽しみとされている取り組みでもあるため、一層の充実を望む。
- ・子育て支援について、こどもの特性を早い段階で見つけることは、すごく大切なことと思う。こども園の早い段階で、子どもの特性を掴み、よりよい指導ができるような検査を促して、環境を整えてあげたい。保護者と園・学校との連携をより充実することを願う。